

第32回（令和7年度第1回） セーフコミュニティ 児童虐待防止対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和7年6月24日(火) 14:00～

場所：久留米市役所3階 301会議室

1. 開会

2. 協議事項

- (1) 2024(令和6)年度取組実績及び2025(令和7)年度取組方針（案）について
- (2) 取り組みの見直しについて
個票2-③ 児童虐待防止啓発事業 の中期評価の見直し
- (3) セーフコミュニティの次期国際認証について
- (4) みんなでセーフコミュニティ賞について
- (5) インスタグラムを活用した情報発信について

3. その他

- (1) 令和7年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案）

令和7年5月7日	外傷等動向調査委員会
令和7年5月～6月	各対策委員会（1回目）
令和7年7月1日	セーフコミュニティ推進調整会議（1回目）
令和7年7月8日	セーフコミュニティ推進本部会議（1回目）
令和7年7月24日	セーフコミュニティ推進協議会（1回目）
令和7年10月頃	各対策委員会（2回目）
令和7年10月末頃	セーフコミュニティ標語審査会（正副委員長）
令和7年11月頃	セーフコミュニティ推進調整会議（2回目）
令和7年11月頃	セーフコミュニティ推進本部会議（2回目）
令和7年11月頃	セーフコミュニティ推進協議会（2回目）

- (2) セーフコミュニティ標語募集のご案内

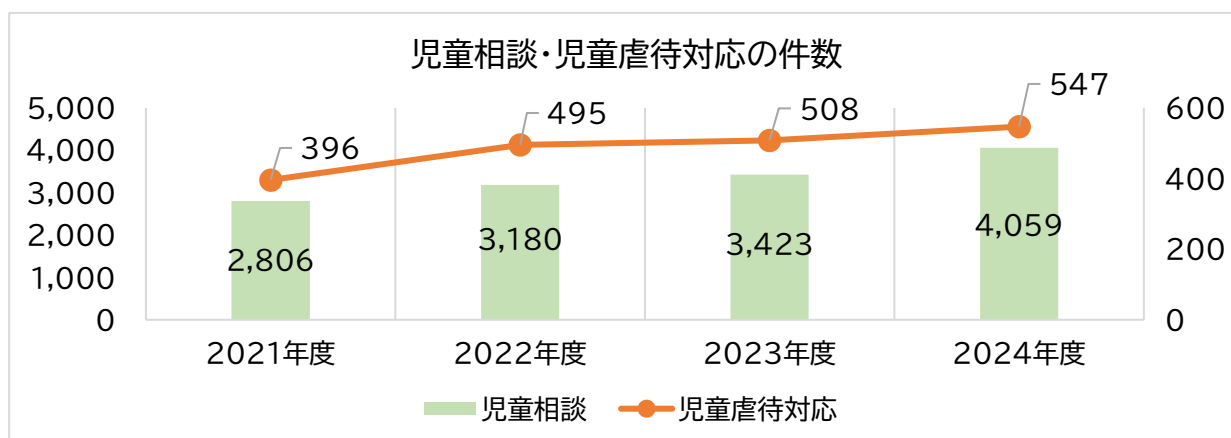
4. 閉会

2024（令和6）年度取り組み実績

児童虐待防止対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
児童虐待の防止	2-①	新生児訪問事業の地域連携
	2-②	赤ちゃんふれあい体験事業
	2-③	児童虐待防止啓発事業

ア. 主な成果〈数値で表せるもの〉



※児童虐待や相談窓口の周知に伴い増加の見通し。児童虐待対応件数は長期での減少を目指す。

イ. 主な成果〈数値で表せないもの〉

新生児訪問の地域連携

市が行っている新生児訪問に主任児童委員が同行訪問できた家庭は、主任児童委員と顔見知りになり、地域のコミュニティセンター等で行われている子育てサロンへの参加にもつながり、子育て家庭の孤立を防いでいる。

ウ. 2024 年度で最もアピールできる事例（成果があった、工夫したなど）

赤ちゃんふれあい体験の経験者が親になって母校のふれあい体験に参加

今年度も地域の子育てサロンや子育て支援センターの利用者から多くの親子が参加した。参加者の中には中学時代に赤ちゃんふれあい体験を経験した卒業生が乳幼児を連れて母校の活動に参加するなど、活動が好循環している状況がみられた。

事前に主任児童委員が中心となって、中学校と打合せを行い、安全に体験ができるよう努めた。また、対策委員会の委員も協力して体験の補助を行った。



エ. 2024 年度に新規・拡充・変更した内容

新生児訪問の地域連携の強化

市が実施する「新生児訪問事業」に主任児童委員が同行し、子育て中の保護者と地域をつなぎ孤立を防ぐ取組は、年々、実施校区が増加し、市内 23 校区で行った。

(R4:4 校区 → R5:18 校区 → R6:23 校区)

オ. 2024 年度に関係機関や団体、市民の主体性や協働性を推進するために実施した取組（関係機関との連携強化や市民啓発等を含む）

児童虐待防止啓発事業の連携の強化

対策委員会をはじめ、様々な機関・団体と連携して、街頭キャンペーンを実施した。また、団体の窓口や地域が主催するイベントや研修において、啓発チラシやグッズを配布していただく等、連携して児童虐待防止に取り組んだ。大学生と一緒にオレンジリボンを作成するなど、若い世代に対しても、協働の取組や児童虐待に関する意識の向上を図った。

カ. 分野横断的に行っていること

要保護児童対策地域協議会等との連携

警察や児童相談所、民間団体等 30 の関係団体で構成する要保護児童対策地域協議会を通して、児童虐待防止のための連携や啓発等の取り組みを行っている。また、DV 防止対策委員会と連携し、オレンジ&パープルツリーの設置を行っている。

キ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

事業の効果的・効率的な実施における課題

実母が加害者となる児童虐待が多いのは、ひとり親家庭は父子家庭と比較して母子家庭が多いことや、家庭において母親の育児負担が大きいことが要因であると考えられる。地域で孤立しない子育てのためのつながりづくりや父親の育児参加を促進するため、啓発方法についてさらに工夫をする必要がある。

赤ちゃんふれあい体験では、「生きていることは当たり前ではないのだなと思った」、「抱っこして、命の温かさを感じた」、「妊婦の大変さがわかった」等の多くの感想が出された。これらの体験を通して、命の尊さを肌で感じ、性別を問わず子育てへの関心が高まり、それを児童虐待の未然防止に繋げることをめざし、継続して事業を実施する。

また、児童虐待の認識の向上や窓口の周知を図るため、対策委員会委員をはじめとした関係機関等とのより一層の連携強化が必要である。

更に、令和3年度から開始した「SOSを発信する力の育成に係る事業」の成果により、子ども自身からの相談件数は、令和3年度：9件、令和4年度：12件、令和5年度：10件となっている。子どもが自分自身の権利を学び、信頼できる大人にSOSを発信できるよう、就学前児童に対する取組みを拡大するなど、これまで以上に事業を推進していく必要がある。

ク. 見直しや改善を検討したい事項

2-③ 児童虐待防止啓発事業について

子ども自身から相談できる体制づくりという事業目標に合致するよう、活動指標に児童からの相談件数を追加したい。

2025（令和7）年度取り組み方針

児童虐待防止対策委員会

具体的施策		2025 年度取り組み方針
2-①	新生児訪問事業の地域連携	新生児家庭への同行訪問の実施 市（こども子育てサポートセンター）が民生委員児童委員協議会の主任児童委員部会と連携を図りながら、子育て世帯の孤立を防ぐために、引き続き実施していく。
2-②	赤ちゃんふれあい体験事業	「赤ちゃんふれあい体験事業」の実施 昨年に引き続き、主任児童委員、学校、地域の親子、対策委員会と連携し、実施していく。
2-③	児童虐待防止啓発事業	児童虐待防止の啓発強化と子ども自らの相談する力の育成 より多くの市民に児童虐待防止の認識と相談窓口等を周知するため、対策委員会等と連携し啓発活動を実施する。また、継続して、子ども自らの相談する力等を育成するための授業、あわせて相談を受け止める教職員・保育士、保護者、地域に向けた研修を実施する。

(2) 児童虐待防止対策委員会

【児童虐待防止】 2ー①新生児訪問事業の地域連携								
課題	客観的課題	・地域で子育て家庭が孤立している ・虐待者の約 60%が実母である						
	主観的課題	・子育てに困難を感じながらも、相談できる人がいない人が存在している ・子育てに関する相談窓口を知らない人が一定数存在している						
目標		地域で気軽に相談できる体制作り						
実施者・協働者		市（こども子育てサポートセンター）、主任児童委員						
対象者		子育て中の家庭の養育者						
実施内容		市が行っている「新生児訪問事業」の地域連携として、各地域の住民の一人でもある主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ。						
対策委員会の関わり		構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が同行訪問する						
2024 年度の実績（活動実績）		市内 23 校区（継続 18 校区、新規 5 校区）において、市が行っている「新生児訪問事業」に主任児童委員が同行訪問し、子育て中の保護者と地域をつなげ、孤立を防ぐ取組を行った。また、育児支援者不足のハイリスクケース家庭等にも同行訪問を行った。						
(過去 1 年間の改善点)		<u>実施校区の拡大</u> ・久留米市民生委員児童委員協議会定例役員会・会長会、主任児童委員正副ブロック長会において本取組の説明を行い、実施校区の拡大につながった。 <u>連絡ツールの改善</u> ・2024 年 7 月より LINE の利用を開始し、主任児童委員との連絡調整の時間短縮に繋がった。						
(JISC ヒアリング内容について協議・反映した点)								
定量的評価		内容	単位	2020	2021	2022	2023	2024
活動指標		主任児童委員による子育て家庭への家庭訪問件数	件	31	27	35	150	191
短期評価（意識・知識など）		子育てに関する相談窓口の認知度 [セーフコミュニティ実態調査]（注）	%	2021 年度より実施	59.6	－	－	－
中期評価（態度・行動など）		子育てに困難を感じる人がよくある人のうち、相談していない人の割合 [セーフコミュニティ実態調査]（注）	%	2021 年度より実施	9.4	－	－	－
長期評価（外傷発生数など）		児童虐待の発生件数（①児童相談の件数 ②児童虐待の対応件数） ※周知に伴い増加の見通し。 ②については長期での減少を目指す。	①	－	2,806	3,180	3,423	4,059
			②	360	396	495	508	547
定性的評価		同行訪問ができた家庭は、主任児童委員と顔見知りになり、地域の子育てサロンへの参加にもつながり、子育て家庭の孤立の防止につながっている。						
評価結果の活用		＊アセスメント（外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り）結果をどのように活用するかを記載 地域と子育て家庭がつながり、孤立を防止するため、取り組みを継続する。						

(注) セーフコミュニティ実態調査でおこなっていた調査は、今後市民意識調査へ移行する

【児童虐待防止】 2-② 赤ちゃんふれあい体験事業								
課題	客観的課題	親になるための教育が十分でないと感じている保護者が 30%近くいる						
	主観的課題	核家族化や地域とのつながりの希薄化などの影響により、大人になる前に小さな子どもと接する機会が減少している						
目標		命の大切さを学ぶ教育の支援						
実施者・協働者		各校区のすくすく子育て委員会、民生委員・児童委員、主任児童委員、小中学校、市						
対象者		中学生、2015 年度から小学生にも対象拡大						
実施内容		将来、親になる小学生・中学生に乳幼児とのふれあいや子育て体験をしてもらう						
対策委員会の関わり		構成メンバーである久留米市民生委員児童委員協議会の中の主任児童委員が実施している						
2024 年度の実績 (活動実績)		地域・小中学校・市との協働で実施。乳幼児とのふれあい（子育てサロンの出前）、赤ちゃん人形を使った抱っこ体験、妊婦ジャケットを活用した妊婦体験などを行った。 [中学校] - 田主丸中学校 - 江南中学校 - 三潴中学校 - 青陵中学校 - 明星中学校 - 宮ノ陣中学校（保育所体験） - 良山中学校 - 城南中学校 [小学校] - 荘島小学校						
(過去 1 年間の改善点)		・事前にすくすく子育て委員会と中学校と打合せを行い、安全に体験ができるよう努めた。 ・対策委員会の委員も参加し、体験の補助を行った。 ・地域の子育てサロンのほか、子育て支援センターへも親子参加の協力依頼を行った。						
(JISC ヒアリング内容について協議・反映した点)								
定量的評価		内容	単位	2020	2021	2022	2023	2024
活動指標		赤ちゃんふれあい体験・保育体験等の実施学校数	校	未実施	未実施	6	7	9
短期評価 (意識・知識など)		命の大切さについての認識の向上[参加者アンケート]	%	未実施	未実施	98.2	97.8	97.6
中期評価 (態度・行動など)		赤ちゃんふれあい体験等の新規実施校数	校	0	0	0	0	1
長期評価 (外傷発生数など)		児童虐待の発生件数（①児童相談の件数 ②児童虐待の対応件数）※周知に伴い増加の見通し。②については長期での減少を目指す。	①	-	2,806	3,180	3,423	4,059
			②	360	396	495	508	547
定性的評価		体験後の中学生のアンケートでは、赤ちゃんを抱っこして命の重さを感じた、妊婦体験をしてお母さんの大変さがわかった、妊婦さんに優しく接しようと思った、という意見が多くあった。						
評価結果の活用		*アセスメント（外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り）結果をどのように活用するかを記載 児童が命の大切さを実感し、子育てに関心を持つことができるよう、取り組みを継続する。						

【児童虐待防止】 2ー③ 児童虐待防止啓発事業								
課 題	客観的 課題	・虐待を受けた子どもの大半は、小学生以下である ・子ども自身からの相談は出始めているものの、まだ少ない						
	主観的 課題	・子どもが虐待に関する正しい知識を得るための学習機会が少ない						
目 標		子ども自身から相談できる体制づくり						
実施者・協働者		主に久留米市要保護児童対策地域協議会構成団体						
対 象 者		一般市民						
実施内容		・啓発活動（オレンジリボンの作製、街頭キャンペーン） ・児童虐待防止の講演会の実施 ・子ども自ら相談する力の育成						
対策委員会の 関わり		対策委員会の構成メンバーと連携した啓発活動等の実施						
2024 年度の実績 (活動実績)		1. 出生届時に、予防接種セットと一緒に児童虐待防止や面談DV防止の啓発チラシを配布。 2. 団体作成の保護者向け「子育て応援動画」を市ホームページにて配信。(毎月5本) 3. 市立学校の小学4年生及び特別支援学校の児童生徒、県立聴覚特別支援学校の児童生徒、市立保育所の年長児を対象に、「CAPプログラム：子どもが自分の権利を学び、自ら相談できる力の育成を図るための授業」を実施。併せて、教職員・保育士、保護者、地域向けの研修を実施。 4. 荘島よかつ祭で啓発グッズの配布とオレンジリボンの掲示物を作成。 5. 11月の「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」に合わせた各種啓発 ①ゆめタウン久留米と農業まつりで街頭キャンペーンを実施し、啓発チラシ等を配布。 ②久留米大学の学生と協働でオレンジリボンを作製。③マナビィランドで体験ブースを設けた啓発。④人権フェスタで啓発パネルを展示。⑤DV防止対策委員会と協働したオレンジ&パープルツリーの設置。⑥市内の各施設にオレンジツリーを設置。 6. 官民団体との協働で子どもの理解を深めるための連続講座を開催（1～2月）。						
(過去1年間の 改善点)		<u>啓発活動等の強化</u> ・子育て応援動画の配信本数を増加。(2022年度 毎月1本 → 2023年度以降 毎月5本) ・大学生と協働でオレンジリボンを作成する等、若い世代の意識向上を図った。						
(JISCヒアリング 内容について協 議・反映した点)		様々な啓発や取り組みによって、子ども自らの相談する力の育成が図られている。「子ども自らの相談件数」を中期評価の指標として設定したい。						
定量的評価		内 容	単 位	2020	2021	2022	2023	2024
活動指標		イベントや講習会等の参加者数	人	中止	327	431	1,024	1,241
短期評価 (意識・知識など)		子どもの権利や児童虐待についての知識の向上[啓発チラシの配布枚数]	枚	3,890	6,686	8,717	27,600	41,960
中期評価 (態度・行動など)		現 行 子どもの権利や児童虐待についての知識の向上[啓発チラシの配布枚数]	枚	3,890	6,686	8,717	27,600	41,960
		※短期指標と同じ。今後子どもへの啓発事業等が進めば見直す予定。						
		変更案 児童からの相談件数	件	0	9	12	10	8
長期評価 (外傷発生数など)		児童虐待の発生件数（①児童相談の件数 ②児童虐待の対応件数）※周知に伴い増加の見通し。 ②については長期での減少を目指す。	①	-	2,806	3,180	3,423	4,059
			②	360	396	495	508	547
定性的評価		子どもの権利意識の向上を図ることができた。関係機関と連携した啓発を行ったことで、市民へ児童虐待防止についての知識の向上を図ることができた。						
評価結果の活用		*アセスメント（外傷等動向調査委員会等による助言やJISCによるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り）結果をどのように活用するかを記載 対策委員会等と連携した啓発活動を推進するとともに、子どもが相談しやすい環境づくりに努める。						